記者発表資料

（6月17日14時解禁）

令和元年６月17日

新庄河川事務所

大規模土砂災害を想定した危機管理演習を実施

～過去の災害を教訓として、より迅速な災害対応を目指して～

今年度の出水期に備え関係機関合同の危機管理演習を、６月20日（木）に西川町交流センターあいべにおいて実施します。

演習は寒河江川流域（西川町内）において大規模土砂災害（河道閉塞等）が発生したことを想定し、学習型訓練※1により実施します。

平成30年7月豪雨による西日本の災害、平成29年7月の九州北部豪雨による九州北部での土砂災害並びに平成28年8月の台風10号による岩手県岩泉町での土砂災害等にみられるように、近年、全国的に局地的な豪雨がもたらす土砂災害が頻発しています。

また、当事務所管内でも、平成24年4月に大蔵村肘折地区において地すべり性崩壊による土砂災害（平成28年11月対策工完了）、及び、平成30年8月にも2度に渡って豪雨による災害が発生しています。

このような状況を踏まえ、本演習では西川町において気象台、山形県、西川町、警察、消防、自衛隊、山形県建設業協会、東北地方整備局等、関係機関が合同で学習型の「寒河江川流域大規模土砂災害危機管理演習」を実施します。学習型の訓練では、参加者全員が災害対応行動を確認するとともに、関係機関が一堂に会することにより「顔の見える関係」を構築し、迅速な災害対応が出来るよう実施するものです。

記

1. 演習日時　　令和元年6月20日（木）午前10時～午後3時
2. 演習会場　　西川町交流センターあいべ　（山形県西村山郡西川町間沢280）
3. 参加機関　　山形地方気象台、山形県、山形県警察本部、西川町、西村山広域行政組合消防本部、山形県建設業協会西村山支部、防災エキスパート事務局、最上川・赤川水系砂防ボランティア協会、東北地方整備局、新庄河川事務所、山形河川国道事務所
4. 参 加 者　　約60人
5. 訓練項目　　○学習型訓練　：　①地震発生後の土砂災害防止法に基づく対応
河道閉塞・地すべり・がけ崩れへの対応
②初降雨に伴う防災体制の構築
※1「学習型訓練」については、【別紙－1】をご参照下さい。
6. その他　　一般の方で傍聴を希望される場合は、事前に新庄河川事務所までご連絡下さい。

＜発表記者先：山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会＞

【問い合わせ先】
＜国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所＞
TEL：0233－22－0262（調査課直通）
副所長（砂防）　齋藤（さいとう）　克浩（かつひろ）（内線205）
調 査 課 長　　酒井（さかい）　公（こう）（内線351）

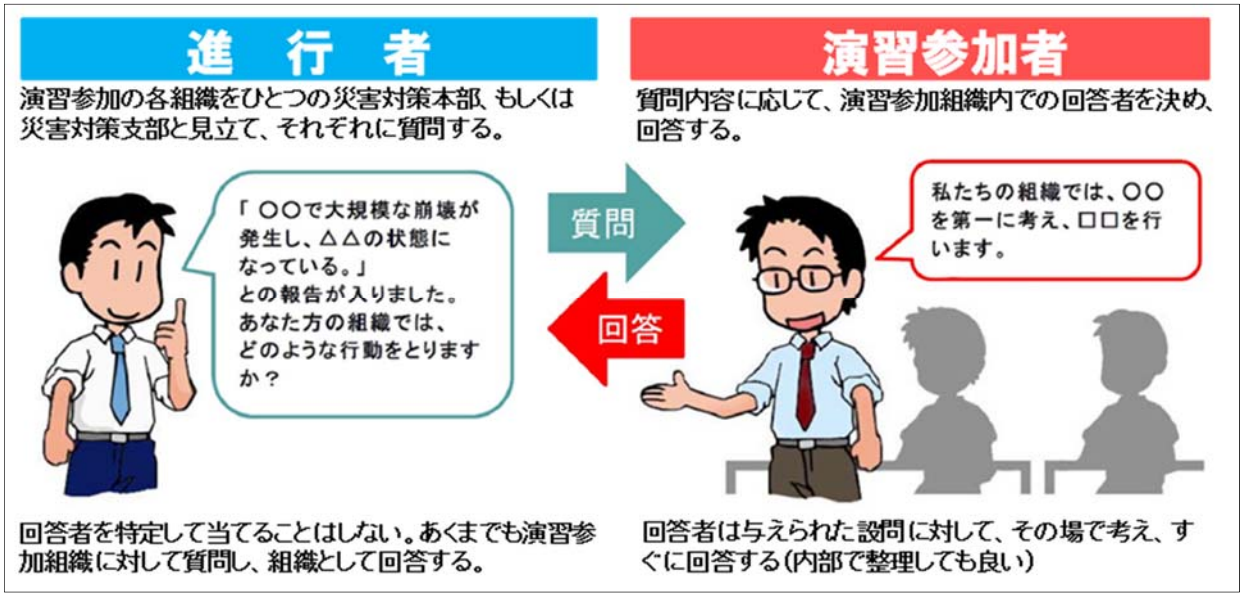
【別紙－１】

■スケジュール

10:00 ～ 10:05	開会・開会挨拶
10:05 ～ 10:15	演習の進め方の確認
10:15 ～	**演習【学習型】**
	ステージ１:【豪雨に対する警戒活動】
	ステージ２:【土砂災害への対応】
	■同時多発的土砂災害 ⇒情報収集～現地調査・避難勧告等の判断～避難 ■河道閉塞・地すべり ⇒情報収集～事前調査～緊急調査～土砂災害緊急情報～避難
《休憩・昼食(約1時間)》	*《休憩・昼食(約1時間)》*
～ 14:30	**ステージ３:【連絡調整会議と合同記者会見】**
	ステージ４:【 河道閉塞や地すべりに対する応急対策～避難解除】
14:30 ～ 15:00	意見交換・全体講評・閉会挨拶・閉会

■訓練方法 (※1学習型訓練)

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、想定した災害シナリオに則して状況付与を行った上で、「進行者」は「訓練参加機関」に、その対応について様々な「質問」をし、「訓練参加機関」は「回答」する形式で進行します。




会場全景


回答状況

訓練実施事例(真室川町、金山町、鮭川村　平成 30 年7月)
鮭川流域「大規模土砂災害危機管理演習」

■近年における銅山川流域（肘折地区）での土砂災害発生状況

平成 24 年４月の融雪期に地すべり性の斜面崩壊が発生。約１３万 m3 の土砂が崩落し、崩落した土砂により一時河道閉塞が形成された。

上流の肘折温泉街への被害の恐れが高いことから、発災直後から緊急監視対応等を行い、その後、平成 25 年度から再崩落を防止するため、護岸工、法面工等対策を実施。平成 28 年 10 月末に一連の全ての工事が完了した。



平成 24 年 4 月 10 日に肘折地区で発生した地すべり性崩壊による土砂災害状況



平成 28 年 10 月護岸工、法面工等対策工完了状況